

8. 琉球と蝦夷地

2025.11.13.大橋 幸泰

はじめに

本日の対象／「9 近世日本と清・琉球」、「16 列島北方の社会と交流—アイヌ史の観点から」
→近世の琉球と蝦夷地／近世日本の異域／琉球・蝦夷地を視野に含めることの意味を考える

1. 渡辺美季「9近世日本と清・琉球」

(1) 「華夷変態」の東アジア

17C 中、明清交替／日本・琉球へそれぞれ影響

→日本：明の残存勢力による援軍要請を拒否／琉球：清の冊封を受容

→その前提に、清との摩擦を回避したい幕府の消極的態度

* 日本(江戸幕府)は明からの自立を志向／幕府の威厳を保持することを優先

(2) 日清の「棲み分け」

長崎における日中貿易／1697 長崎会所の設立により、幕府自身が貿易経営に直接参与

→日清双方とも、トラブルが起こっても、国家どうしの交渉を避ける「沈黙外交」を志向

→清に対する琉日関係の隠蔽工作／これにより、琉球の日中両属関係が安定／東アジア全体で共有(公然の秘密)

(3) 日本社会と中国・琉球

日本の主要輸出品／生糸・絹織物(17C)から薬種・砂糖へ(18C)

→それぞれの国産化の進展／日本経済は中国経済からの自立化を促進

→日清交流の一方で、人的交流の希薄さ／中国・朝鮮・琉球、由来の人々を「唐人」と一括して把握する傾向

→異国情報の精度は低い／虚実入り交じる異国イメージの醸成／清の日本イメージも同様(倭寇イメージ)

* 日清両国の微妙な力関係のバランスの上に、東アジアの安定が存立

2. 谷本晃久「16列島北方の社会と交流—アイヌ史の観点から」

(1) 近世の列島北方域

列島文化の三分区分／北の文化：アイヌ文化、中の文化：和風文化、南の文化：琉球文化

→日本語の二区分(本州と琉球)に対して、アイヌ語の三分区分(北海道アイヌ・樺太アイヌ・千島アイヌ)

(2) 列島北方域の文化的個性と交流

a.北海道アイヌの文化／和人社会の文物を移入しながら展開

b.樺太アイヌの文化／中国(清)との交流を前提に個性化

c.千島アイヌの文化／ロシアとの関係を軸に個性化

→この他に、本州東北地方北端にアイヌの生活痕跡／史料上、その個性を確認することは困難だが、確実に存在したことは確か

(3) 支配の構造

a.北海道アイヌ／和製品の移入を前提に成立／商場知行制から場所請負制へ

→場所請負制段階／和人商人によるアイヌへの前貸しによる負債の恒常化／アイヌは雇用労働者として場所請負商人への隷属を強いられる

b.樺太アイヌ／18C以降、清支配を前提とした生活

→山丹交易により入手された蝦夷錦／和人社会への移入はこのルートのみ

c.千島アイヌ／18C以降、ロシア支配を前提とした生活

→日露双方と中継貿易を構築したアイヌ首長の存在

* **三つのアイヌ文化／文化複合的独自性を保持／これも日本列島の成熟した文化の一端**

3. コメント

(1)異域という位置づけ

1970代の幕藩制国家論を前提に、1980代以降、近世期の琉球・蝦夷地の位置づけが見直される

→幕藩制国家の外側／ただし、完全な異国ではなく、異域／線としての国境は存在しない

・南の国境／琉球藩設置(1872)を経て、琉球の廃藩置県を断行(1879)／明治政府、武力を背景に沖縄県設置を宣言／これら一連の過程を琉球処分

・北の国境／日露和親条約(1855)：日露の国境を、択捉島と得撫島との間に規定したのが最初／蝦夷地を北海道と改称(1869)

→**国民国家としての日本の国境／1880年前後にほぼ成立**／沖縄・北海道は、以後、本土への同化が強制進行／異域から内国植民地へ

(2)異域に暮らす人々の主体性

かつては、和人による琉球・アイヌへの一方的支配が強調される傾向／しかし、マイノリティには主体性が欠如していたという評価への反省／1990代以降、琉球・アイヌの主体性に注目した研究へシフト

→琉球の場合／蔡温が起草し、琉球王府が1732年に発出した「御教条」

*薩摩藩のおかげで今日の琉球があると明記

→琉球の薩摩藩への従属のように見える一方で、同時に琉球の人々が安心して暮らせる琉球統治を薩摩藩へ要求する、とのメッセージ／薩摩藩へのプレッシャー

マジョリティによるマイノリティへの理不尽な統治／それをとらえ返すマイノリティの知恵

→ただし、マジョリティを相対化する視点を持っていないと、マイノリティがマジョリティの作為に荷担する危険性あり／たとえば、マイノリティの国民化

おわりに

琉球・蝦夷地を日本史の視野に含めることの意味

a. **本州社会のみが日本ではない／日本文化の多様性**

b. **治者の一方的統治を相対化／被治者の主体性**

【テキスト】

牧原成征編『日本史の現在4 近世』（山川出版社、2024年）

【参考文献】

渡辺美季『近世琉球と中日関係』（吉川弘文館、2012年）

谷本晃久『近世蝦夷地在地社会の研究』（山川出版社、2020年）

紙屋敦之『東アジアのなかの琉球と薩摩藩』（校倉書房、2013年）

【付記】

・明日までに、Hoppiiieにて講義記録の提出を求める。

・小レポート提出期限12月17日：小レポートを提出した者が試験(2026年1月8日)の受験資格を有する。